

令和元年度 第 10 回教育委員会定例会

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第 1 号 令和元年度垂水市外国語活動 指導講師の委嘱について</p>	<p>垂水市外国語活動指導講師の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	

令和元年度 第 10 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>令和2年1月10日（金）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後3時35分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教育委員 田之上 厚美</p> <p>教育委員 福里 由加</p>	<p>教育総務課長 紺屋 昭男</p> <p>学校教育課長 明石 浩久</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p> <p>国体推進課長 米田 昭嗣</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和元年度第10回教育委員会定例会を開会した。

## 2 令和元年度第9回定例会会議録の承認

承認

## 3 議 事

報告第1号 令和元年度垂水市外国語活動指導講師の委嘱について

## 4 その他

垂水市教育振興基本計画（案）について

## 5 委員並びに教育長及び課長報告

## 6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告第1号
学校教育課長	令和元年度垂水市外国語活動指導講師の委嘱について 令和元年度垂水市外国語活動指導講師の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。
田原委員	勤務校の取扱いについて聞かせてほしい。
学校教育課長	8小学校を外国語講師3名で分担したときに、今回新規採用した講師については、報告第1号の勤務校3校を担当させようとするものだ。
田原委員	わかった。
4 その他	垂水市教育振興基本計画(案)について
教育総務課長	垂水市教育振興基本計画(案)のパブリックコメント実施について、実施期間及び実施場所、基本計画案の内容を報告した。
教育長	今回の垂水市教育振興基本計画(案)について、特に工夫したところはどこか。
教育総務課長	第1期、第2期の教育振興基本計画に比べ、事業等の文章に写真等を付け加え、事業等の実際を視覚に訴えるとともに、今後5年間に取組む施策のそれぞれの分野の最終ページに、取り組む事業一覧を掲載しているところである。
田原委員	次期教育振興基本計画案については、前回分に比べ改善はされていると思うが、5年間の計画の中で目玉となるものはどのようなことか。
教育総務課長	次期教育振興基本計画には、新たに取組む施策として「垂水高等学校への支援」を掲げ、本市にとって「なくてはならない学校」であることから、現在も支援を行ってはいるが、次期教育振興基本計画に明記した。
学校教育課長	「垂水ならではの教育の推進」が重点目標として掲げられていることから、これまで進めている「わくわくどきどき！夢教室」や中学生対象の各種学習会の、「夢の実現！学びの教室」、小学生対象の「あつまれわんぱく！夏の勉強会」、「心はればれ！学習会」などの事業を継続実施することと併せて、グローバル化が進行する社会の変化に対応するため、英語教育の充実を一番のポイントとして、小学校の外国語活動指導講師、民間委託のALT、海外派遣事業、英語検定補助や「垂水キッズ イングリッシュ クラブ」という英語教室などを開催するなど充実させながら、「英語が楽しい」と思えるよう、力を注ぐつもりである。
社会教育課長	現在の計画期間中も新たに事業を進めており、ファーストブックスタートだけだったものを、セカンド、サードまで「ブックスタート事業」を拡大

	<p>したり、「子どもたちの夢と感動を育むギャラリー」であったり行っている ので、事業を継続するとともに、次期教育振興基本計画に盛り込んだ。そ の他、日本遺産認定や、島津家墓所の国指定による利活用についても明記 した。</p>
国体推進課長	<p>今年、第75回国民体育大会「燃える感動かごしま国体」が開催され、本 市においてはフェンシング競技が開催されることから、一過性で終わるの ではなく、国体終了後もフェンシング競技大会の定期的な開催と、小学 生を中心とした「垂水フェンシングクラブ」による選手育成を行っていく こと等を明記した。</p>
葛迫委員	<p>教育振興基本計画(案)を見て思ったが、教育は子どもたちだけでなく、 おとなも教育をしていかなければならないのではと思うことであつた。 ただ、社会情勢の中でグローバル化や過度の情報社会の中で、子ども たちも、また大人も情報の良し悪しを見極める力が必要ではないかと思 う。いろいろな詰め込み教育だけでなく、何か一つに取り組んで、その 事をクリアしていくと、またその後に繋がっていくような教育が必要 ではないのかと思っている。勉強が好きになるということは、ただ詰め 込み教育ではなく、何かのきっかけで、勉強が好きになるのではない かと思えるので、そのことを大人も一緒に探していけるような手助けが 必要なのではと思った。</p>
教育長	<p>好きなことを一つ見つければ、そのことを極めて自信を持っていく と思う。そのことはこれからの教育にとって大事なことと思う。 それと情報についても、子どもたちのほうが大人よりも早く情報を持 っており、SNSによりどこでも、誰とでもつながる時代である。大変 怖いことであり、犯罪が起こる怖さを感じることから、保護者等大人 の研修する機会を作っていかななくてはならないのではと思っている。</p>
5 委員並び に教育長及 び課長報告	<p>委員並びに教育長及び課長報告</p>
教育長	<p>委員並びに教育長及び課長の報告に入る。</p>
田原委員	<p>1. 「市体育館のリニューアルオープンセレモニーと全日本フェンシング 選手権大会1日目について」 12月20日(金)、垂水市体育館のリニューアルセレモニーや、館内では全 日本フェンシング選手権大会1日目が開催された。 セレモニー終了後、リニューアルされた体育館に入って、まず感じたの は、館内が明るくて広くなったように感じられ、「新築かな」と思える ほどの立派さであつた。 音響も非常に素晴らしく、選手の皆さんも気持ちよく試合が出来る のではないかと思った。 今回、初めて生のフェンシングを見て、その俊敏な動きに圧倒されてど</p>

葛迫委員

ちらが勝ったのかわからなかったが、一瞬一瞬の勝敗は電子審判機で確認して、なるほどと納得した。また、フェンシング競技会時に頂いた弁当もおいしく、包み紙の絵も素晴らしかった。

## 2. 「成人式について」

1月5日(月)、温かく灰も降らず、絶好の天気の中で成人式を迎えた今年の新成人は、幸せだなあと思った。

変わった服装や、式にそぐわないパフォーマンスをするような人もなくきわめて厳かで清潔感あふれる成人式であった。

二十歳の主張も、目標を持ちそれに向かって努力している学生や、既に仕事に就いて日々精進している人など、しっかりと知に足をつけて歩んでいる姿が垣間見えるよい発表であり感動した。

## 1. 「垂水中央運動公園体育館のリニューアルセレモニー及び全日本フェンシング選手権大会について」

12月20日(金)、午前8時から始まった垂水中央運動公園のリニューアルセレモニーには、垂水市内の関係者の方々が集まり華やかにテープカットが行われた。

終了後、リニューアルされた体育館に入ると、旧来の体育館ではなく新築したような感じを受けた。天井から照らされるライトは、陰影をつけることなく四方八方から照らされ、しかも明るさを保った館内であった。

会場では、全日本フェンシング選手権大会が開催されており、日本国内から多くの競技者が来ていたことに驚きを隠せずにはいられなかった。

「ここは垂水市内か？」と目を疑うような雰囲気を作り出していて、これがフェンシングの競技の華やかさに繋がっているのだと思うことだった。

垂水市民や県民の方々にとっては、フェンシング競技の内容やルールについてわからない方が多いと思うため、市の広報誌を使うなどして、フェンシングの魅力を市民の方々にご理解いただけるよう伝えてもらいたいと強く思うことだった。

また、国体時の役員向けのお弁当を、今回の全日本フェンシング選手権大会でも「食べてもらおう」ということで準備され、垂水の食材を使った「おもてなしがずいぶん詰まっているなあ。」と感じるとともに、運営に関わるの方々にとって、このお弁当は「ありがたいお弁当」ではないかと、おいしく頂きながら思うことであった。

## 2. 「垂水市成人式について」

1月5日(月)、垂水市文化会館で開催された成人式に出席した。

いつもの年に比べ、暖かな成人式であった。

今年の成人式のタイトルが「軌跡」～感謝への思いを令和(みらい)へ～という副題がついていた。

新成人の思いが「軌跡」という言葉に裏付けられ「先人の成し遂げたことに感謝し、次に繋げていこう」とする姿勢に感心することだった。

二十歳の主張で込められた言葉に、垂水で育ったことや、両親・友人・恩師への感謝の気持ちを忘れずにいつも持っていること。今の自分の新し

い道筋に生かしたいとする二十歳の若者の姿に感動する素晴らしい成人式であったと思った。

※報告後、1月11日(土)に柗原小学校で行う「垂水街角美術館課外授業」について案内を行う。

田之上委員

1. 「全日本フェンシング選手権大会について」

12月18日(水)、全日本フェンシング選手権大会に先立って、に本フェンシング連盟会長の太田雄貴氏の講演会に参加した。

太田氏は話し方も上手で、聞いている私たちも聞きやすく、講演内容についても、目標を自分で定めて、そのことに向かっていくその過程を、太田氏自身が実践しているため説得力があり、会場内の学生や若者にとってもよい話であったと思った。

講演の第2部ではフェンシング競技の実技もあり、ルールの解説などもあり、20日から開催された大会も楽しく見させてもらった。

大会の決勝戦は、体育館でなく文化会館で行われ、スポットライトや勝敗が判りやすく、会場内も観客の方が少ないのではないかと考えていたが、選手や選手の家族なども観戦していてポイントが入るごとに歓声や拍手があり、すごく白熱した真剣勝負を見ていて、私自身感動させられた

秋の国体は今以上の盛り上がりとなると思うので、役員の方々も大変でしょうが成功に向けて頑張ってもらいたいと思った。

2. 「成人式について」

穏やかな天候にも恵まれ、垂水市成人式が行われた。式においては、からかいや失笑、私語などもなく、しっかりとした和やかな雰囲気であったように思えた。

二十歳の主張においても、それぞれの新成人がしっかりと前(未来)を見つめて進んでいこうという様子が伝わった。

それを聞いていた周りの保護者も、子どもの成長を喜びながら涙ぐんでいた。

来賓の国会議員の祝辞で、垂水の歴史や文化などいろいろとお話をいただき、新成人にとっては節目のときにふるさと垂水を知りよい機会になったのではと思うことだった。

子どもたちも、久しぶりに会う同級生に徐々に打ち解けあい、駆けつけてくださった先生方、親たち、地域の方々にお祝いしていただきうれしい一日となったと思う。また、親同士も久しぶりの再開で話が弾んだ。

式が終わったあとは、各小学校でタイムカプセルの取り出しもあり、子どもたちも更に盛り上がったようであった。

行事が多かった二学期を終え、冬休みには家庭や地域でさまざまな経験をし、三学期を迎えていることと思う。まとめの学期になるので風邪など体調に気をつけて、実り多きものとなるように願っている。

福里委員

### 1. 「境小学校「学校保健委員会」の参加について」

12月18日(水)、境小学校より学校保健委員会の開催案内が来ていたので参加した。

「ゲーム・スマホを長時間すると睡眠不足になり成績が下がる」という演題で、増田クリニックの増田院長先生のお話があり、境小の子どもたち、保護者、先生方と一緒に聞かせてもらった。また、他校の保護者も数名聞きに来ていた。

講演が始まり、すぐに先生の口から「子どもは外で遊ぶのが仕事です。」とあり、それが特に印象に残り、「ああ、やっぱり遊ばないといけないなあ。」と思うことだった。

子どもにとって夜の10時は深夜時間で、小学生も午後9時から午前6時の9時間の睡眠時間が必要だと話されていた。

幼稚園でも保護者に生活票を、月に1回1週間だけ付けていただいているが、幼稚園生でも午後10時30分とか、12時に寝る子どもがいて、事ある毎に、「午後9時までには寝ましょう。」と言っているが、9時までには寝ている子は半数ぐらいの状況で、なる時間が遅い子どもは、朝からは「ぼーっ」としていて、午後帰る間際に調子が出てきたりしている状況で、私自身たいへん気になっているが、先生も同様なことを話されていた。

また、スマホやゲームが低年齢化してきていて、保健師の方に聞いた話だが、ベビーカーに乗りながら子どもがスマホをやったりしている。また実際送迎のときに見かけるが、子どもが車に乗った瞬間、すぐにスマホを見る子どももいる。増田先生がおっしゃるには、小学生までは親が管理できるが中学生以上は親に隠れて、夜遅くまでスマホをやるなどして、学校に行けなくなる子どももいて、先生からは「病気ですよ。」と話され、わが子もスマホをしたり、ゲームをしたりするので怖いなあと思った。

スマホやゲームをしていると「脳が興奮して感情コントロールができなくなってきたり、親自身がスマホを見ていたり、何かを調べたりするときもスマホに頼ってしまうことはいけない。」ともおっしゃっていて、私自身いろいろ考えさせられる講演会であった。とにかく「早く寝ることが大事」と先生からあった。

最後に、境小PTAの体育部長さんから、「われわれは、メディアで育っていない。自分たちが育ったように子どもたちを育てていきたい。」と話された。先生からも、「メディアに頼らない、今しかできないことを、いろいろやらせてあげればよいのではないのでしょうか。」とあった。

また、「子どもには勉強をしてから、ゲームをさせるのではなく、ゲームをしてから勉強をさせないと、勉強したことを全部忘れてしまう。」と話を聞いて怖いと感じた。

### 2. 「太田雄貴氏の講演会について」

12月18日(水)、文化会館であった、日本フェンシング協会の太田雄貴会長の講演会に家族で参加した。

いろいろな年代の方が参加されていて、講演の最初のほうでは、「ゆめ」は自分でやらなければ「夢」とはいえないと話され、「目標までの道筋を具体的にし、努力することが大切である。」と話されていたのが印象的で、来ていた子どもたちもよい話を聞いたのではと思った。

教育長

2部構成の講演会で、フェンシングのルールなど実際にフェンシングを見ながら解説していただき、実際フェンシングは見ごたえがあり、わが子も見てから「フェンシングをやりたい。」と言っていた。

12月20日(金)の決勝戦も家族で見に行き、フェンシングのスピードにとっても感動した。国体というせっきくの機会なので、多くの市民の方々に来場していただき応援してもらいたいと思った。

1. 「太田雄貴 日本フェンシング連盟会長の講演について」

講演会の内容をキーワードで拾ってみた。ひとつひとつの言葉にいろいろなことが含まれていた。

例えば、目標までの道筋を具体化し「考える癖をつける」ということもすごく大事で、「努力」ということに併せ、自分の「現在地」から「目標」までの距離を設定することで、そこに行き着く「速度」が明確になってくる。まさに太田会長の言葉には含蓄があり、「みんながやらない努力」、「明確な逆算準備(一喜一憂しない)」、「こだわるポイント」、「課題発見能力」などを加味しながら、力を付けていくということであったと思う。

また、「夢や目標」については、子どもたちに、夢や目標は「早ければ早いほどよい」、また、人が決めるのではなく「自分で決める」ことが大切であるとおっしゃっていた。ビジョンについても、「全員の思いを一つにすること。」今の言葉では「ワンチーム」であり、「個人目標やチーム目標」、感動体験(非日常的体験)」についても講演の中で触れられていた。

私は、講演を聞きながら、太田会長はフェンシング競技の「見せ方のうまさ」があると思った。写真や映像などの伝達手段を駆使し、周りの人やプロカメラマンの方を使うなどの「こだわり」である。

つまり、太田雄貴会長の、「仕掛ける力」、「段取る力」、「こだわり」により、「フェンシングの魅力はどう伝えるか」ということであったのではないかと思った。

2. 「さまざまなイベントの開催にあたり思うことについて」

先般、全日本フェンシング選手権大会が開催されたが、このような事業を行ったとき、いつも思うのが、「影で動いている人」、つまり「運営を誰がやっているのか」というところ教育委員の皆様方も触れていただいたが、市の職員であったり、ボランティアであったり、関係者であったり。

その方々がいるからこそ、このような大会が開催できて、感動を生みよい大会となる。

先日の成人式で言うならば、実行委員会をしっかりと立ち上げるまでの道筋を立てるのが、社会教育課の課長を始めとした職員であり、その後は実行委員会の皆さんのアイデアを生かした、自分たちで工夫をさせながら手作りの成人式を行う段取りをしているからこそ、今回の素晴らしい成人式が行えたと思うし、その方々への感謝だろうと思う。

3. 「新たな年の始まりに際し思ったことについて」

新たな年が明け、教職員の人事が始まっている。先日人事関係の面接の冒頭、学校長へ「学校からの情報発信を大事にしてください。」と申し上げた。

新聞の「若い目」であったり、「こどものうた」であったり、あるいは学校行事が新聞に掲載されることなどで、多くの方々に元気を与えられると思う。今朝の新聞の「若い目」に、松ヶ崎小学校2年生児童の「3学期にがんばりたいこと」と題して掲載されていた。このような学校や子どもたちの情報発信をしてもらいたいと伝えた。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長  
国体推進課長

12月10日から1月10日までの主な行事等について報告。  
併せて、2月10日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会